

# ま ん ま

Enjoy  
Country Life  
Yasuda Town  
MANMA

Vol.

# 27

2026.January

故郷  
便り

安田  
町

高知  
県



## contents

- 01 安田町、次の100年に向けて  
黒岩之浩町長インタビュー
- 03 トピックス安田町  
安田町制施行100周年の記念式典  
新編安田文化史が完成
- 07 安田びと  
集落活動センターやすだ 佐古卓夫会長  
合同会社菓福 池上模哉さん  
民宿とうの浜 坪内順兵さん
- 13 安田からの新しい風  
うるかむ安田協同組合



### 新編安田文化史の意義

記念事業の柱として進めてきた「新編安田文化史」が完成しました。この文化史は過去を振り返るだけの書ではなく、郷土の足跡を学び、未来の町づくりを考える道標と



## 安田町、次の100年に向けて

令和7年に安田町は町制施行100周年を迎えました。黒岩之浩町長に次の時代へ向けた想いを聞きました。

### 先人たちへの感謝

町制施行100周年という大きな節目を迎えたことに、式典が終わってから実感が湧いてきました。この100年は決して平坦な道ではなく、先人たちの知恵と勇氣、たゆまぬ努力と情熱を持つて町を守り育ててくれたことを想像すると、町民ひとりひとりに感謝しかありません。先人たちがこれまで築いてきた伝統、誇りを胸に、さらなる飛躍へと挑戦を重ねていくことが、次の世代を担う私たちの使命だと思っています。

町の将来像である「共に生き 未来につなぐ安田町くみんなどで創る共生空間」の実現を目指し、郷土・安田町を次の世代へ引き継ぐため、力強く歩み出す決意を新たにしました。

なるものです。概要版は町民の皆さんにお配りします。

その編さんにあたり、委員長を務めていただいた高知大学名誉教授の古尾寛博士をはじめ、執筆者・編集委員の皆さん、貴重な資料・写真を提供してくれた町民の方や団体の皆さんに感謝申し上げます。

### これからの町づくり

人口減少や少子高齢化、産業の担い手不足という目下の課題に対応しながらも、20年、30年先を意識した取り組みの必要性を感じています。特に、町の基幹産業である農業は、地域経済と暮らしを支える重要な柱であり、安田町が「農業立町」としてあり続けるために、農地の基盤整備や集積によ

る高度利用、先端技術の導入、さらに新規就農の支援など未来へつなぐ農業を構築します。

また人口減対策として、移住支援や就業支援、住環境整備などをさらに前進させます。高齢者福祉、地域公共交通の利便性にも引き続き取り組み「住みたい・住み続けたい」と思えるまち」の実現を目指します。

地域の元気を取り戻すために「対話と協働」を打ち立て、町職員が地域に入り課題を共有し、その解決に向けて努力しています。この経験が町民の理解を得られるネットワークづくりになるなど、職員の成長を促します。それも20年、30年先を見据えた動きのひとつです。町民の皆さんとともに、対話と協働により、魅力あふれる町を次世代へとつなげていきます。



## 町制施行100周年 の記念式典

町から町民への感謝の  
気持ちがあふれ、  
町民も笑顔で祝福しました。



令和7年10月5日、安田町文化センターで「安田町制施行100周年記念式典」が行われました。

南順一副町長の開会の辞でスタート。安田町の暮らしの中にある「山のこころ、土のこころ、水のこころ」を紹介した安田町制施行100周年記念映像上映、式辞では黒岩町長が先人たちへの感謝を伝え、「この100年の節目を迎え、郷土の誇りを胸に次の100年に向けて町民の皆さまをはじめ、各種団体や行政が心を一つにして町の発展に尽くしていきま



子どもから大人まで多くの町民が参加した記念もち投げでは笑顔があふれ、記念行事となった安田中学校吹奏楽部演奏では、ギタリストの山下俊輔さんと一緒に演奏。その後、山下さんが作曲した町制施行100周年記念テーマ曲の演奏に合わせて、イラストレーターサイトのウマサミツさんがライブドローイングで、鳥の目線で安田町の豊かな自然や魅力を描きました。

町の将来像である「共に生き、未来につなぐ安田町くみんなで創る共生空間」の実現のために、次の100年に向けて進み始めました。



### 安田町100年の歩み

- 1925年 安田村が町制をしき安田町に
- 1932年 中山村役場完成
- 1943年 安田町と中山村が合併し安田町へ
- 1951年 安田町商工会設立
- 1966年 安田川分水開始
- 1970年 安田小学校完成
- 1971年 安田町庁舎完成・町章制定
- 1975年 町制施行50周年記念式典を挙行
- 1978年 中山小・中学校完成
- 1994年 新潟県安田町(現阿賀野市)と姉妹町盟約締結
- 2007年 中山小学校と安田小学校が統合  
中山中学校と安田中学校が統合
- 2015年 「安田さくら園」が幼保連携型認定こども園に認定
- 2018年 スペイン・モンテプリオと姉妹都市締結
- 2020年 安田町新庁舎完成



安田町制施行  
100周年記念映像

# 新編安田文化史が完成しました



町民の生活に  
今なお根付いている  
文化を捉えた一冊です。

旧史「安田文化史」(昭和27年)、前史「新安田文化史」(昭和50年)を踏まえ、安田町制施行100周年の記念すべき年に「新編安田文化史」(令和7年)が完成しました。

412ページの本文と、日本(世界)・郷土(安田)の年表などの附表、地名・人名・事項索引などが41ページにわたります。この冊子を取り

まとめた吉尾寛さんに話を伺いました。

「令和2年の年末ごろに当時の山本誠教育長から打診があり、安田には縁があるので恐縮しつつ引き受けました。昔のように郷土史の大家に支援を得ることはできなかつたので、自分のネットワークを活かして時代、テーマの専門家に集まっていたいただきました。執筆者は11名。いずれもこれまで安田町と縁を持つ方で、7千万年前から現在まで、地域への思いがこもった町史が出来ました。また、町民の方や事業者さんに写真や貴重な資料を提供してもらったことも感謝しています。

本書は安田、中山という大きな地区のくくりではなく、今の町民の皆さんが生活するそれぞれの「場の歴史を振り返り、根付いている神祭、法要、町民運動会、文化祭など生活文化にも光を当てました。今を生きる町民の皆さんは安田の長い歴史の中の最先端にいるんです。だからこそ町民の方に手に取って、読んでいただきたいのです。

そのため地名・人名・事項と3種類の索引を工夫して設けました。町出身の方も自分が生まれた「場」の歴史を知ること、郷土への思いを深めていただけるのではないかと思います。」

町内の各家庭には「新編安田文

問い合わせ先/安田町教育委員会  
☎0887-13816714



「安田町制施行100周年記念式典」では、感謝状が贈られました。

安田町史編さん委員会 委員長  
高知大学 名誉教授  
吉尾 寛さん



祖父が清岡寛一元町長で、唐浜出身の吉尾さん。その後愛知県で暮らし、平成14年に高知大学人文学部教授として赴任。自分のルーツがある安田町に関わる仕事をしたいと思い、魚梁瀬森林鉄道調査の生活史の聞き取りなどに関わってきた。

委員長を引き受けると週3日は安田町へ通い、自転車で乗ってハウス園芸を営む方、長年社会活動に励んでこられた方など多くの声を聞いた。特に秋の神祭には県内外から帰省して参加する人が多く、「先輩たちが見つないできたことを自分たちの世代で止めるわけにはいかない」という話に、それを維持していく人々の絆を感じたという。



# 地域の活力を 取り戻す組織へ

3つの部会を核として  
子ども、地域のことを支え  
活気ある町を目指しています。

「安田町に宿泊できる施設があれば、もっと気軽に帰省したり、友人に会うこともできると思います。将来の二拠点生活や移住のためにも空き家の活用を考えていきたいですね」と佐古会長は前向きだった。

新たな加工品づくりにチャレンジ。

安田町の中心部に位置する安田地区は、国道55号沿いに東は東島地区から西は唐浜地区までの幅広いエリアとなります。その地区の課題解決や持続可能な地域づくりを実現するため、令和2年に「つながる」絆〜安田町内会を設立。その組織が令和5年5月に「集落活動センターやすだ」を立ち上げました。令和7年度から会長になった佐古卓夫さんに、現在の活動状況やこれからの目標をお伺いしました。

現在はイベントへの参加や出店など賑わいをつくっている「絆・稼ぐ・賑わい」部会。子どもの放課後の居



空き店舗の活用や、イベントにも参加。

場所についての調査報告や、子どもたちが参加するイベントを主催している団体へのサポートなどをする「教育・福祉」部会。地域の草刈りの手伝いや、ニンニクをはじめとする農産物の生産や休耕田を使ったお米づくりをする「農業」部会。この3つの部会を核として活動しています。

佐古会長は、「メンバーは多くいますが、各部会の代表をはじめ10人程が中心となって運営しています。家族が第一優先、仕事が二番目、その次に暇だったら参加してほしいというモットーで、新たなメンバーを募っています。結成6年目から運営資金を確保して自立する必要があるため、農業部会を中心にさらに活動を進めていきます。今のところつくった作

物を加工、販売につなげるという課題があります」と話します。「まだ発表はできませんが、新たな加工品づくりはスタートしています」とニコッと笑う佐古会長。メンバーを増やし新たな活動にも挑戦していく「集落活動センターやすだ」です。



農業部会ではニンニクを収穫。

集落活動センターやすだ  
安田町大字安田1736番地1



安田町で暮らす池上さんは、「毎日海の音を聞きながら寝られますので快適な気分です。釣りやダイビング、アウトドアが趣味であり、この町の自然環境に魅力を感じました」と笑う。

## 安田に生産拠点を設立

健康でおしゃれで美味しい、  
現代のニーズに合う和菓子を  
全国に出荷するメーカーです。



安田町産の農産物も活用。

和食の料理人としてスタートした池上槇哉さんは、その仕事の延長上で和菓子にも力をいれてきた、トータル27年の和食・和菓子の職人です。令和7年から安田町に加工場と住居を構えました。

地域の食材を使った、現代のニーズに合う和菓子を中心とする商品開発からパッケージデザイン、ブランディング、販路拡大など多岐にわたる仕事を一手にこなしています。その実績は高く評価され、県内外の市町村や企業から委託を受け、アドバイザーとして商品のブラッシュアップや食のレシピの改良などにも対応しています。

土佐のハイカラ菓子  
『あんぱたちーずさんど』  
2種類の厳選した北海道クリームチーズを使ったバターチーズクリームに、安田町産の牛乳と天日塩を合わせて口当たりを良く仕上げている。それに自家製の餡子と合わせ程よい甘さとクリームの濃厚な風味が特徴の逸品。土佐の元気市で販売中。



「冷蔵だと日持ちしない商品が多いので、無添加でありながらいかに工夫をして賞味期限を延ばせるかを考えます。また料理人は目の前のお客さまに美味しいものを

お出しできますが、2週間たったものを同じクオリティに保つために知識や加工技術を習得しています」と池上さん。

安田川の清流が育む鮎やナス、お米、自然薯をはじめとする安田の農産物に質の高さ、可能性を感じたという池上さん。安田町産の牛乳と天日塩を使った土佐のハイカラ菓子『あんぱたちーずさんど』を早々に開発・販売。「これから安田町産のマンゴーや柚子を使った大福なども考えています」と話します。

四国をはじめとする県内外のスーパーでの販売、海外輸出もされている「菓福」の商品たち。その一部に安田町で生産されている農産

物などが使われることで誇らしい気分になりました。



人気の和らびもち。

合同会社 菓福  
安田町大字安田1760番地1  
☎0887-30-1301

# 事業継承して 遍路宿を運営

春や秋はお遍路さん、  
夏やお正月にはファミリー、  
新たなオーナーに注目です。



宿泊してくれた外国人の国のフラッグを立ててお出迎え。とても喜んでくれているという。



「メインは蒸籠を使った肉、野菜の蒸し料理で、野菜をいっぱい食べてほしいし、ベジタリアンやビーガンにも対応します。日本のお遍路さんも高知ではお魚料理が中心になるので、とても喜ばれます」と坪内さん。

地域でお遍路さんを出迎えたい。

安田町唐浜。国道55号沿いであり、四国霊場第27番札所・神峯寺の登山口に近く、歩き遍路にとっては理想的な場所にある「民宿とうの浜」。ここの若きオーナーが坪内順兵さんです。本人も歩き遍路の経験があり、遍路文化の魅力を大事にしたいと高知市内でお遍路さんのゲストハウスを営んでいました。  
そんな坪内さんにご縁があり、「民宿とうの浜」を事業継承することになった。「ここは神峯寺を通るとてもいい場所なんです、この周辺に以前3軒あった民宿が、今はここだけになりました。お遍路さんにとっても必要なポイントだし、宿を



残すことは大切だと思いましたが」と事業継承した理由を語ります。  
正式なオープンは今令和7年7月31日。前オーナーが前日の30日まで営業していて、当初の一週間は「お客さまが来てくれるのかという心配と、慣れない環境で睡眠不足で

した」と振り返った坪内さん。Webサイトをリニューアルして英語ページを作り、そこから予約・決済ができるようにして外国人のお客さまが予約しやすい環境整備をしたことで、今や3〜4割を占めているといいます。



「安田町出身者の方も帰省の際にはご利用ください。地元に戻って仕事を考えている人は、ここを少し手伝ってほしいです」と坪内さんからのメッセージ。



和室が11室、洋室が1室の計12室。無料駐車場、洗濯機、衣類乾燥機の設備も完備。



クラウドファンディングを活用して、最新式のシャワー室やトイレも整備。

「現在は使われていない結婚式場がありますので、保護猫の譲渡会やカラオケショーなど町民が気軽に交流できる多目的ホールにして、地域の方と密接につながりたいです。そういった皆さんと一緒に頑張ってお遍路さんを歓迎することが理想ですね。挨拶をしたり、手を振ることでおもてなしの心が伝わり、お遍路さんも喜んでくれると思います」と今後の展開を語ってくれました。

民宿とうの浜  
安田町大市唐浜2374番地1  
☎0887-38-8827



施設情報は  
こちらから

うるかむ安田協同組合 職員 徳山 道溶さん(福岡県出身)



日本中の災害現場で働いたり、ボランティアをしたりしていて、南海トラフ地震と、全国で唯一行ったことがない高知県にも興味がありました。そんな時にスマウトを通じて安田町とつながりました。

現在は協同組合の職員という立場で働かせていただいていることを、

派遣先の皆さんが理解してくれているので、とても安心して働いています。3カ月ほど介護の仕事をした経験も活かしています。



特定非営利活動法人 訪問看護ステーション  
看護小規模多機能型居在介護

なかやま楽校 管理者 和田 庸平さん

徳山さんは来所者に寄り添って働くので助かっています。介護の現場はいつも人手不足なので、大変危機感を持っています。そんな中でうるかむ安田協同組合の人材派遣制度はありがたいです。この制度が安田町への移住促進につながり、職員が後々も定住するよう、町と組合が一緒になって頑張ってもらいたいですね。



うるかむ安田協同組合の  
南順一代表理事(右)と  
公文智也事務局長(左)

安田町からの新しい風

うるかむ安田協同組合

南 順一 代表理事/公文 智也 事務局長

## 事業所と町が 一緒になって新たな雇用を

移住者の皆さんを温かく迎え入れ、

地域との懸け橋になっていく。

新たな取組がスタートしました。



### 職員(マルチワーカー)募集中!

安田町でも、他の市町村と同様に少子高齢化が進み、農業や福祉をはじめとする地域産業の担い手不足が課題となつていきます。そんな中で、地域の事業者の「深刻な人出不足」と、町役場の「町を元気にしたい」、「移住者を増やしたい」という想いが一致し、令和7年4月に「うるかむ安田協同組合」を設立しました。当初8者だった組合員は16者となっております。

今年度は2名の職員(マルチワーカー)を募集し、1名の採用が決まりました。業務は組合員の事業所に派遣。業種や職種の異なる複数の職場が勤務先となります。事務局長の公文さんは「さまざまな仕事

を経験して、自分に合った仕事が見つからば就職しても、起業してもいいと思います。来年度も2名の職員を募集しますし、5名までは増やしたいです」と組合拡大に向けて取り組んでいます。代表理事の南さんは「安田町は農業立町で繁忙期にはどうしても人材が求められますし、福祉・介護事業所もそうです。移住を考えている方にとつても就業の場所のひとつですし、住居も組合がサポートします。安田町に興味を持っている方や、安田町出身の方にはこの組合のことを知ってもらいたいです」と話します。

全国から新しい人を迎え入れる「うるかむ」の想いが、安田町に新しい風を吹き込もうとしています。これからの協同組合の活動に期待してください。

うるかむ安田協同組合  
安田町大字正弘530番地  
☎0887-30-2010

スマウト  
(移住マッチングサービス)

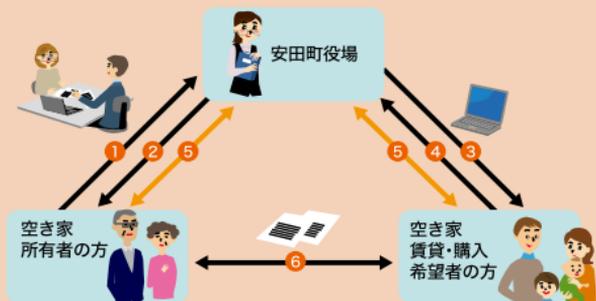




安田町では、移住・定住促進を目的とした  
支援制度を設けています

## 空き家バンクについて

空き家バンク  
の仕組み



- 1 空き家情報の提供・相談対応
- 2 現地を確認し、空き家バンクへ登録
- 3 町HP等へ掲載、移住希望者への情報提供
- 4 賃貸・購入希望者の方からの問い合わせ・相談
- 5 所有者の方、賃貸・購入希望者の方との連絡調整
- 6 当事者間や不動産業者を介した交渉・契約



安田町では、空き家利用希望者と空き家所有者をつなぐ  
空き家バンクを運営しています。  
空き家の活用は、地域の活性化にもつながります。  
まずは下記問い合わせ窓口にお気軽にご相談ください。

### 移住・定住促進を目的とした支援策について

#### U・Iターン希望者住居改修費等補助金

U・Iターン希望者や移住希望者の受け入れ住宅の改修費用(畳やふすまの入れ替え、簡易修繕など)及び荷物整理等に要する経費を補助(改修費用:最大270万円、荷物整理等:最大30万円)します。

#### 移住支援金制度(東京圏からのUターンが対象)

対象となる地域から移住し、対象求人へ就職等をした方に対して、100万円(2人以上の世帯)を支援します(単身の場合は60万円)。18歳未満の世帯員を帯同して移住する場合は、18歳未満の者1人につき、最大100万円を加算します。

#### 住居確保応援奨励金

移住・定住を目的として、安田町内で新築住宅や中古住宅の取得等を行う若者・子育て世帯等に対して奨励金を交付(最大100万円)します。上記に加え、新婚世帯(婚姻後1年以内に限る。)または子育て世帯(18歳未満の者を扶養している世帯)、町外からの移住者については、それぞれ50万円を加算します。

#### Uターン交通費支援事業費補助金

高知県外に居住する移住希望者に対し、安田町を訪れ、移住活動を行う際に必要となる居住地から安田町までの交通費の一部を支援(若者・子育て世帯等:1人当たり5万円(世帯上限15万円)、その他:1人当たり3万円、世帯上限9万円)します。

#### 移住者起業等・事業承継事業継続奨励金

安田町に移住し、起業等または事業承継を行う方に対し、事業継続のための奨励金を交付(最大200万円)します。

問い合わせ先

安田町地域創生課

TEL:0887-38-6713



安田町HP  
(移住情報)

又は



スマウト  
(安田町ページ)



### 安田町役場 地域創生課

〒781-6421

高知県安芸郡安田町大字安田1850番地

TEL0887-38-6713 FAX0887-38-6723

E-mail sousei@town.kochi-yasuda.lg.jp

ホームページ <https://www.town.yasuda.kochi.jp/>

